

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892200284
法人名	株式会社ニッケーアサービス
事業所名	グループホームニッケーとして加古川
所在地	兵庫県加古川市加古川町本町239-1
自己評価作成日	令和5年10月31日
評価結果市町村受理日	令和5年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和5年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になると今までの生活に支障が出てきますが、ご本人が今、出来ること興味を持っていることを一緒に、快適な生活環境になることを心がけています。毎日、体操、歌を唄い、認知症の進行が少しでも緩やかになるよう、取り組みを行っています。として加古川の中庭に畑があり、野菜を育て、食事やおやつに使用したり入居者様が食べる楽しみを持って頂こう、工夫をしています。天候や体調に合わせて敷地内の散歩や近くの公園や神社まで散歩に出かけ、足の筋力低下予防や外に出る楽しみを作っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れた点、工夫点(評価機関記入)】

【優れた点】リスクマネジメントへの取り組み：全国の事業所で共有を行い、子トテ加古川では、11月約40件のヒヤリハット報告を挙げ職員間の気づきを深め事故防止に動いている。月1回Web会議を開催し共有を図っている。【工夫点】・年3回防災訓練では、1回水害を想定した訓練を実施、職員が避難経路と避難場所を確認している。・24時間医師に相談できる体制が整備されている。ラナイバジー確保への取り組みとして2ヶ月に1回接遇委員によるルールの見直し等が行われミーティングを活用し全職員へ報告を行う。・おやつ作りや行事食など職員も一緒に食が楽しみとなるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己評価	外部評価	
	自己評価 実践状況	実践状況
1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員通用口の所に理念を掲示し、入職時の研修の際、資料として配布して説明を行っている。</p>
2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>散歩に出かけた時は、隣にある保育園の園児や地域住民に挨拶をしている。</p>
3	<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>事業所内では、認知症ケアについて研修を行っています。中学生のトライやる・ウインターや高校生のインターンシップの受け入れを行っています。</p>
4	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、サービス向上に関する意見や報告サービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回、地域運営推進会議を開催しています。</p>
5	<p>○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市役所には、事故発生時や救急搬送などの報告を行っています。また、相談事も市役所に行っています。</p>
6	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>各フロアの行き来は自由です。 入居者様の行動を制限することではなく、職員に見守られながら過ごされています。コロナ感染の時は、一時的にフロアの行き来を止めたことがあります。玄関の鍵は防犯上、閉めています。</p>
7	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>リスクマネージメント委員会で全事業所統一の虐待マニュアルを作成し、研修に取り入れています。接遇委員より、普段の言葉遣いが悪い職員には、その都度、注意を行っています。</p>

次のステップに向けて期待したい内容

コロナ禍も沈静化の今日、地域事業等に参加したりして日常的な交流の広がりが望まれる。

事故件数はヒアリング件数は、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、サービス向上に関する意見や報告サービス向上に活かしている。
事故件数はヒアリング件数は、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、サービス向上に関する意見や報告サービス向上に活かしている。

自己第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について資料を配布している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について資料を配布し、年1回研修を実施している。		
9	(8) ○契約に関する説明と納得 、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、ご本人やご家族とお会いし、施設の生活や活動にご理解をいただき、入居を決めます。契約時は、必ず、時間をいただき、契約の説明を行い納得をいただいているからの契約の締結を行っている。	入居前には、ご本人やご家族とお会いし、施設の生活や活動にご理解をいただき、契約の締結をしている。又利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、納得をいただいているから契約を締結している。		
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望がある場合には、管理者や介護リーダーへ直接伝えて頂いています。	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、意見や要望がある場合には、管理者や介護リーダーへ直接伝え運営に反映させている。		
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、会議を実施しています。職員の意見や活動に対して支援を行っています。	月に1回、職員参加のミーティングを開催し、リスクマネジメント委員会よりの報告に入っている内容を学び運営に関する職員意見や提案を聞く機会を設け反映させている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員、個人で目標をたてて、その目標の評価を行っています。できるだけ、職員が働きやすい環境を作れるように努めています。			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型のサービス事業所で、合同で研修を月に1回行い、知識や技術のスキルアップが出来る場を作っています。認知症実践研修に講師として参加しています。			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の集まりに参加して、ネットワーキングを行っています。			

自己第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	入居時、ご本人の生活歴、趣味や嗜好をお聞きして、ご本人を理解する為の資料として活用し、出来るだけ早くご本人が安心して生活できる場を作れるように努めています。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナで何度も会えない時もありましたが、家族が困っていることや不安なことを見学の時からお話を伺っています。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望をお聞きして、その時に必要としているサービスの提供を行っています。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に常に寄り添うパートナーであるという事を忘れず、日常生活でのお手伝いや役割を持っていただけるよう支援を行っています。時間を大切に共に過ごしています。			
19	○本人を支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日頃の様子を状況報告や電話、面会時にお伝えしています。3月に家族会を検討中です。			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	入居者様の住み慣れた町や開わってきた人との関係性が続くよう感謝祭を開催して地域の方との繋がりを持っています。	本人様と地域や地域住民との関係が継続できるとも様々な支援を大切に努めています。面会時間も緩和され家族様と一緒に食事に出かけることもできるようになりました。R5.5感謝祭を開催しキッチンカーや野菜の販売など地域の方々や職員、近隣保育園とつながり交流の機会となっている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の行動を把握し、施設内の行事は、ユニット合同で行っています。友人関係が築けた方は、ユニット間を行き来され、毎朝、挨拶に行っている方もいます。			

自己 第三者	項目	自己評価 実践状況		外部評価	
		実践状況	実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に、こちらから、連絡を行う事はありませんが、急に立ち寄って来られる家族様もいらっしゃいました。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日々の関りの中で、思いや意向などの聞き取りを行い、ご本人が望む生活に繋げることが出来ないか会議やユニットの職員と検討している。	本人様がどのように暮らしたいか、何をしたいかを理解するために、日々の関わりの中で声掛け、言葉や表情からその真意を推し量り、それとなく把握するようになっている。職員全員がひとり一人の思いや意向について関心をほらい、話し合い取り組んでいる。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの情報シートを使用して、入居前の生活状況を収集。電話でもご家族より聞き取りを把握に努め、スタッフ間でも情報共有している。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの情報シートで入居前の心身の状況を把握して残存能力に応じた役割が出来るように努めている。			
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中での困りごとの把握は、毎日の申し送りや職員間で検討して、解決できることは、すぐに対応している。解決できないことは、後日、会議の中で検討し、プランに反映している。	利用者様の視点に立ち、より良く暮らすための、必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。計画については身体状況の変化や支援内容について職員全員で意見交換やモニタリングを繰り返し適切なケアについて検討している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや介護記録にご本人の状況や変化を記録している。変化が大きくなれば、プランの変更を行っている。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が望まれる場合、他のサービスに繋げるようにしている。既存のサービスだけに捉われないように気をつけている。			

自己 第3	項目	自己評価	実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況			
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントは、コロナ禍になり中止になってから、現在、イベント自体がなくなってしまう。天候が良い日は、散歩に出かけ、街並みや季節感を感じていただいています。			
30	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診。 専門医への受診が必要な方で、ご家族の付き添いが困難であれば、職員が付き添って通院している。	本人様や家族様が希望するかかりつけ医と なっている。訪問診療の提携医は、24時間体制が整備され夜間の相談もできる。現在は、全利用者様が希望され適切な医療にこつながらついでいます。利用者様の希望から複数の 歯科医の往診を受け付けています。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者様の体調面で気になることがあれば、主治医へ相談しています。 現在、施設看護師がいけない為。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室に連携を行い、病状や退院の見通しを確認している。	医療機関に対して、入院の目的を伝えられるよう情報提供書を提供し、なるべく混乱が少 ないよう基本情報や普段の状況を伝えてい る。家族と共に地域連携室相談員と連携を 図り、回復状況等の情報交換をしている。速 やかな退院支援に結びつけている。		
33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について は、入居時の契約の際に説明をしている。 終末期では、ご家族の意向を確認し、医師との面談にて状態の説明をしていただいで います。その上で看取りのケアを開始してい る。	終末期および重度化の指針をもとに早い段 階に説明しあり方について家族等と話し合っ ている。本人様家族様の意向を踏まえ、医師 や連携をとり、安心して納得した最期が迎 えられるように、随時意志確認しながら取 組んでいる。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを事務所やユニットに掲示している。			
35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回、防災訓練の実施。参加出来な かった職員については、報告書を確認して もらい、周知出来るように努めている。	年に3回、防災訓練の実施。参加出来なかつ た職員については、報告書を確認し、周知に 努め、また防災訓練の一つとして消防署への 通報訓練を行っている。		

自己第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声かけに注意を払い、職員の押し付けにならないように一人一人の対応を行っている。接遇委員のチェックも実施。	利用者様の人らしさ尊厳ある姿を大切にしている。職員が利用者様に発している言葉の内容や語調等がプライバシーを損ねるものになっていないか、2ヶ月1回接遇委員で日常的な確認と改善に向けルールの見直しなど行っている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者様を第一に考え、支援を行っている。入居者様の表情や行動を把握し、思いを言っていたただけるよう耳を傾けている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日々の生活において、お一人お一人が自分らしく自分のペースで過ごせるよう、強制はしないようにして、出来る限り希望に添えるように努めている。			
39	○身だしなみやおしよれの支援 その人らしい身だしなみやおしよれができるように支援している	ご本人の好みに合わせた衣類や着慣れた物を着ている。定期的な訪問美容でカットしています。			
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は入居者様と行い盛り付けや片付け、洗い物を手伝って頂いています。おやつ作りや食事作りも定期的に行っている。	食事は湯煎した食材を盛り付け提供している。利用者様の個々の力を活かしながら職員と一緒に皿に盛りつけ、片付けなど行います。食を楽しむために、カレーライスを食事、またおやつやお誕生日ケーキと一緒に手作りするなど大切な活動としている。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の食生活の把握をして健康管理に努めている。ごために水分補給の提供を行い、食事形態や食器もおかずに合わせて変えて見た目や食べやすいように工夫を行っている。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいを行っている。ご自分で出来ない方については、職員が介助して清潔を保てるように努めている。必要な応じて訪問歯科の往診をしていただいている。			

自己第3者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用エツク表を用いてトイレの誘導するタイムングを図っている。おむつの方については、状態に応じて使用している。	トイレでの排泄を可能にするために、「行きたいときにトイレに行くことができる」よう、本人様の生活リズムに沿った支援と使いやすしいトイレ環境のもと行っている。排泄用エツク表を使用し、一人ひとりの排泄の状況や困難な要因を丁寧にチェックしパターンを把握し自立支援に向けた支援を行っている。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、水分(スポーツドリンクやお茶)をこまめに飲んで頂いている。毎日、体操を行い体を動かして頂いている。			
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイムングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイムングに合わせた声かけを出来るだけ、行っています。拒否のある方については、時間帯を変更したり、声かけする職員を変えたり、日にちをずらすら個々に応じた支援を行っています。	週2回ユニット毎に曜日を換え入浴していただきます。湯船に浸かれる浴槽や個浴など浴室環境を整備している。拒否のある方には、言葉かけや対応の工夫、職員を変えて声掛けするなど利用者の心情に配慮した入浴支援を展開している。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めておらず、見たいテレビがある時は、ゆっくりと観て頂いている。眠れない入居者様には、飲み物を提供したり、ゆっくりと話を聞き、安心して眠っていただけよう支援している。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より、一包化の内服薬の配達があり、日付や名前、いつ飲むのか、印字されており、誤薬や飲み忘れがないように徹底している。服薬担当者を決めている。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片付け、洗濯干し、洗濯たたみ、花の水やり、畑の草引きや野菜を育てたり、役割や楽しみを持つた生活が出来よう支援している。			
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の時は、外食には出ていませんでしたが、車でのドライブや近くの公園や神社に散歩に出かけたりしています。家族様と外出され食事を食べて来られる方もいます。	昨年度は車中ドライブでした。コロナ禍の制限が緩和され家族様との外出や昼食など出かけられるようになりました。日々の散歩も職員とともに行っていきます。お弁当を購入し外出して皆でお食事をしました。お正月には、近隣の神社へ初詣を予定しています。地域との交流が再開されています。		

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカに依りて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失の心配もあるため、ご自身で金銭管理を行っている方は少ない。必要な場合は、立て替えを行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話連絡時、入居者様と電話をかわることもある。はがきに写真を貼り、郵送したり自分で手紙を書ける方は、手紙を出されることもあった。			
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を行い、清潔を保てるようにしている。排泄の臭いがある時は、消臭スプレーを使用したり、換気を行い、不快にならないように気をつけている。キッチンに花を飾り、落ち着いて過ごせるような空間作りに努めている。	共用の空間は利用者にとって不快や混乱を招くような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、フロアと別れており、食後、ソファに座ってくつろがれる入居者様もいる。テレビも自由に観てもらえる。歌や手作業をしたり気の合った入居者様同士で過ごして頂いている。			
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みのある物をご自宅より持参していただいている。家族の写真やテレビの持ち込みをされる方もあり。	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや馴染みのある物をご自宅より持参していただき本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは自分で出来るようにトイレまで矢印を壁に貼ったり、トイレとわかりやすい表示をドアに貼っている。居室を迷われる方については、名前や目印をつけたりと工夫をしている。			